



## 吉田町長に聞く 「これからの町づくり」

震災から10年目の節目となる令和2年度が始まりました。これから浪江町がどのように発展していくのか、「これからの町づくり」について吉田町長に聞きました。2回にわたり掲載します。

### 昨年度はどのような年でしたか

これまで蒔いてきた復興の種が芽を出し始めた年でした。

特筆すべきところでは、スパーのオープン、複数の誘致企業の進出決定などが挙げられます。また3月に開所式を行った世界最大級の水素製造拠点（福島水素エネルギー研究フィールド）は、町の新しいシンボルになるものと思っています。さらに請戸漁港には、水産業共同利用施設が完成しました。水揚げされた新鮮な魚介類の出荷が始まれば、町全体が活気づくものと期待しています。

道の駅なみえ、木材製品生産拠点施設も既に着工しているので、今年度も町の復興を象徴するような施設が、次々と完成を迎える予定です。

### 今年度は、何を目指していきま

すか  
これまで、「町のこし」をスローガンに、復興に取り組んできましたが、これからは一歩進めて「持続可能なまちづくり」を目指していきます。

町は今、急速な人口減少と少子高齢化によって、非常に厳しい財政状況にあります。道路や上下水道を震災前の水準に戻し、将来にわたり維持するためには多くの経

費が掛かりますが、人口が減ったからといって、水道料金を何倍にも値上げするわけにはいきません。今後、国などに財政支援を求め「持続可能なまちづくり」のために新たな種を蒔いていきます。

### 「持続可能なまちづくり」とは

町民が、将来にわたり普通の生活を続けていくことができる町をつくることです。

そのためには、財政の健全化を図り、人口を増やして産業を活性化する必要があります。当面は、居住人口5千人を目指し、住みよい町をつくることを第一の目標としているので、これまでと大きく変わるものではありません。

### 具体的な取組は

まずは、生活環境（医療、介護など）の整備、働く場所・住む場所の確保が重要だと思っています。

医療面では、町内に診療所と歯科医院はあるものの、総合病院の整備や専門医の確保は今後の課題です。安心して暮らせる医療体制を整えるため、引き続き関係各所に働き掛けを行っていきます。また介護については、既に民間で一部サービスが開始されましたが、町の施設も、今年度からふれあいセンターなみえ跡地に建設が始まります。

働く場としては、今年度、複数の誘致企業が操業を開始することから、町内において一層の雇用創出が期待されます。さらには、農林水産業の再生に向け、町内2か所で準備を進めている乾燥調製貯蔵施設（カントリーエレベーター）をはじめとした営農再開支援事業や、泉田川ふ化施設の再開準備、漁港施設の充実などにも力を入れていきます。

住む場所に関しては、災害公営住宅のほか、請戸住宅団地の整備を進めているものの、決して十分とはいえないことから、どのような支援が最適であるのか、新たな施策を検討しているところです。

### 全町の避難解除も大きな課題では

昨年度、特定復興再生拠点の除染が始まりましたが、それ以外の場所に関して、いまだ国から明確な方針が示されていません。長い歴史と伝統文化を持ち、先祖から受け継いだ土地ですから、除染して元どおりにすべきであり、経済的な尺度で語るものではないと思っています。

引き続き国に対して、全域の避難指示解除に向け具体的な時間軸を含めた方向性を示すよう、強く要望していきます。

